

地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年7月末時点）

中山間地域の果樹地帯における目標地図の作成に向け推進				長野県山ノ内町 南部地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	190経営体 （130経営体）	農地面積 （うち農振農用地）	248 ha （142ha）	主な農畜産物	果樹（りんご・ぶどう・もも等）
農業地域類型	中間農業地域	遊休農地	29.8ha	現状の集積率 （目標）	43% （60%）

地域の現状と課題	将来の地域農業の方向性
・本地域は果樹地帯で、気候条件にも恵まれ、りんご「ふじ」を中心に高品質な果実が生産されている。 ・Iターンによる新規参入者や親元就農者が多く、担い手への集積が進んでいる。 ・一方で、山際の農地は山林化が進み、鳥獣害防止の緩衝地帯化など、活用方法を検討する必要性が生じている。 	・比較的個人の新規参入が容易な果樹産地であるという特性を踏まえ、日本一就農しやすい地域づくりに取り組むため、新規就農支援等を中心に協議する。 ・また、ブランド力の向上のため、新品種、高品質、高い技術を導入し、先進的な産地づくりを目指す。 

協議を進める過程で発生した課題	取組経緯（課題への対応）及び今後の予定
・家族経営中心の果樹地帯であり、農地の集積が容易でない。 ・品目、品種、樹齢、仕立て等圃場に付随する条件が様々で将来にわたる農地のマッチングが難しい。 ・集約化の意向が強くない。（霜・雹の懸念、作業時期分散のため） ・山間の農地であるため、条件不利農地や老木園等の生産性が低い農地が多い。 ・農業は世界情勢に左右されやすく、安定した収入や労働力の確保が難しい。	・令和5年12月、地域内の農業者や地権者に対し、農地の利用意向に関するアンケートを実施。 ・2月、アンケート結果を農委サポートシステムへ取り込み、現状地図に落とし込み作成。 ・3月以降、南部地区「地域計画」策定検討会を開催。 ・現状地図を基に、将来の農地の受け手、遊休農地の活用について話し合いを重ねていく。 ・今年度中に目標地図の素案を含めた地域計画の内容を固める。 